

の肉眼的全摘出は、astrocytic tumor と subpial lipoma 症例を除くと大部分の症例で可能であり、機能予後も良好であった。しかし、astrocytic tumor では、肉眼的全摘出あるいは95%以上の亜全摘は4例のみであり、follow-up 期間中の腫瘍による死亡は7例(41%)であった。以上より、脊髄髄内腫瘍に対して外科的摘出は有効であるが、特に high-grade の tumor に対しては後療法の開発が必要である。

2B-8) 慢性関節リュウマチに伴う環椎軸椎脱臼により生じた椎骨動脈閉塞の1例

遠藤 雄司・高橋 和孝  
 高橋 秀和・高萩 周作  
 小島山博之・笹沼 仁一  
 後藤 博美・渡辺善一郎  
 小泉 仁一・後藤 恒夫 (南東北病院 脳神経外科)  
 渡辺 一夫  
 江尻 莊一・森谷 貴夫  
 松枝 朗 (同 整形外科)  
 渡辺 栄一 (福島県立医大 整形外科)

症例は慢性関節リュウマチに罹患している50才女性、頭痛、構語障害、右片マヒにて発症し当院に搬送された。頸椎単純写真では、環椎軸椎脱臼を認めた。脳血管撮影では、左 VA は、環椎上で狭窄し PICA 分岐後に閉塞していた。右 VA は、PICA 分岐後に著明に狭小化しており、脳底動脈の造影は著しく不良であった。保存的に経過をみたところ数時間で、構語障害、右片麻痺は消失した。後日の脳血管撮影では、左 VA は再開通していたが、頸部前屈で左 VA の狭窄が出現した。運動に伴って繰り返す左 VA の狭窄が塞栓の原因となったと思われ、再開塞の予防のため後方よりベスト T1 ループを用いて後頭骨から C1~C2 までの固定術を施行した。術後は経過良好である。慢性関節リュウマチに伴う環椎軸椎脱臼により椎骨動脈狭窄を繰り返し、塞栓症を生じたと思われる1例を経験したので報告する。

2B-9) Transcondylar approach で治療した cervical dural arteriovenous fistula (ビデオ)

丹羽 潤・松村 茂樹  
 村山 直昭・大山 浩史 (市立函館病院 脳神経外科)  
 平井 宏樹

Transcondylar approach で治療した cervical dural arteriovenous fistula (AVF) の手術手技について報告する。症例：61才男性。左椎骨動脈の硬膜入口部近傍に

脊髄後面を走行する拡張、蛇行した medullary vein を認めた。Cervical dural AVF と診断して、1995年1月13日 transcondylar approach を行った。Lateral neck dissection にて3層の筋肉を剝離し、第1頸椎の横突起を確認して椎骨動脈を露出した。後頭下開頭に condyle の後方1/4を切除し、第1頸椎の hemilaminectomy を行った。硬膜を切開すると椎骨動脈 (V4)、第1、2頸髄神経後根および accessory nerve が露出した。歯状靭帯を切断すると脊髄の左側方の視野が展開され、硬膜に接着している drainer が確認できたので、これを凝固切断した。術後の椎骨動脈写では AVF は描出されなかった。

2B-10) 静脈性循環障害によると考えられた、脊髄梗塞の1例

浅野 剛・井須 豊彦  
 瀧川 修吾・蓑島 聡 (釧路労災病院 脳神経外科)  
 竹林 誠治

静脈性循環障害によると考えられた、脊髄梗塞の1例を経験したので報告する。

【症例】52才女性。平成6年10月頃より排尿困難、続いて両足底のしびれ感を自覚。その後、しびれ感は両下肢に広がり、右下肢に脱力出現。12月には歩行困難となった。初診時、神経学的には右に強い両下肢の筋力低下、T4-S2 level の知覚障害を認めた。MRI では、T11-T12/L1 の髄内に Gd-DTPA にて増強効果を示す lesion を認めた。髄内腫瘍の診断にて、平成7年2月に手術施行。同部は静脈叢が疎で、やや黄色を呈していた。脊髄を切開したところ、明らかな腫瘍性病変は認められず、術中病理の所見も同様であった。肉眼所見及び病理所見より脊髄梗塞が考えられ、検体採取にて手術を終了した。術後10日目より、しびれ感、両下肢脱力の改善が認められた。

2B-11) 腰部脊柱管内 ganglion cyst の1例

池田 潤・伊藤 輝史 (日鋼記念病院 脳神経外科)  
 宮町 敬吉・七戸 秀夫 (同 脳神経外科)  
 澤田 一二 (同 整形外科)

Ganglion Cyst は一般的に手関節、肘関節等の四肢関節に生じ、脊椎関節に発生することは Kao らが1968年に初めて報告して以来わずかに報告例を散見する程度である。今回我々は、腰部脊柱管内に発生した ganglion